プラタナス

新宿区立四谷中学校　学校だより　第8号　令和３年３月２５日

令和2年度第20回卒業式を挙行いたしました。卒業生91名最後まで立派でした。

「卒業生入場」

「卒業証書授与」

「校長式辞」

「来賓式辞」

校長（東　孝夫）式辞 ～抜粋～

保護者の皆様、９年間の義務教育を終えられたこと。ホッとされているのではないでしょうか。ここまで、いろいろご苦労があったことと思います。まだ大人になるまで時間と経験がかかります。もう少し手を差してあげてください。

今年はコロナウイルス感染症に翻弄された一年でした。３か月余りの臨時休校から始まり、合唱・運動会、そして修学旅行等、学習や部活動の成果を披露できず、涙した生徒もいっぱいいることも知っています。一年間この状況によく耐え、そして、よく我慢しました。立派でした。

１０年前の３．１１東日本大震災、（台風による甚大な自然災害、）そして、この新型コロナ感染症拡大と歴史に残る出来事が私達に襲ってきました。「試練は誰にでも平等にやってくる」ともいわれますが、この試練をエネルギーに変えて乗り越えていかなければなりません。

卒業生に最後の贈る言葉を二つ言います。

●「天網恢恢疎にして漏らさず」私の一番大事にしている言葉です。

　生きてゆく上で、不平等さを感じたり、報われないなと悲しんだりするとき、そういう時は、「必ず漏らさず救ってくれる。」「腐らず、諦めず前に進むことが大事」、ノーベル賞の大村　智博士、今コロナウイルスへの特効薬ともいわれているベルメクチン開発で話題になっていることは知っていると思います。大村博士も、お母さんから「諦めずに前を向いて人のために何でもやりなさい」と言われ続け、その教え通り長い年月研究に取り組んできたそうです。この言葉「決してあきらめず前に進め」

●もう一つは、「感謝」の気持ちを忘れないということです。

　行事のたび、また機会ある毎に私は皆さんに言っていることです。そして今日も言います。感謝の心は、人として失ってはいけない心の一つであることは道徳の授業でも十分理解しているはずです。「感謝の心が人を育て、感謝の心が自分を磨く」という言葉があります。感謝の気持ちを忘れず、そして、それに当たり前のように「ありがとう」の言葉を心から添えられる人になってほしいと強く願っています。どんな時代になろうとも、「感謝」の気持ちを忘れないように！願っています。

　私たち教職員は、皆さんの入学式の時「責任をもって預かる」といわせてもらいました。ここからは「責任をもって送り出す」ことを約束しまして、式辞といたします。

在校生（個人情報保護）の言葉 ～抜粋～

先輩方はこの学校で過ごした三年間を、今、どのように感じているでしょうか。ここで出会ったかけがえのない友人や先生方との別れを惜しむ気持ちに胸がいっぱいになっていることと思います。三年間の想い出も、思い返してみると、尽きることがないのではないでしょうか。

私もこの場に立って改めて先輩方と過ごした二年間を思い返してみると、多くの思い出が蘇ってきます。そして、多くのことを学ばせていただいたのだと実感しています。一年生の時に見た運動会。練習の段階から団結する先輩方の姿に「かっこいいなぁ」と小学校との違いに驚かされました。特に本番で見たダンスは先輩方の一糸乱れぬ姿に迫力を感じました。学芸発表会では練習でハーモニー作りに苦労していた私達とは違い、 先輩方は男性パートの重圧感が増し、調和のとれた歌声でした。そこにお互いを尊重し合うことの大切さを感じました。

「在校生の言葉」

入学当初の体験入部では、先輩方との接し方、部活動のルールについて、練習方法など様々な事を優しく教えてくださったことを覚えています。先輩方が明るく盛り上げてくださったおかげで楽しい雰囲気で参加することができました。先輩方が教えてくださったことを活かして、今では私たちが一年生に教えることができています。 その一年生たちも、部活動の楽しさを知ることができました。先輩方は私たちの良い手本であり、憧れでした。いつも私たちを支えてくださりありがとうございました。

「卒業生の言葉」

四谷中学校で過ごした日々も、今日で終わります。しかし四谷中学校での想い出は、ずっと変わらないことでしょう。私たちも先輩方と過ごした日々を忘れることはありません。その日々の中で伝えていただいた四谷中学校の伝統を守り、より良く発展させていきます。最後になりましたが、在校生一同、先輩方の輝かしいご活躍をお祈りしています。

卒業生（個人情報保護）の言葉 ～抜粋～

入学式のあの日、私たちは不安や期待を胸に秘めながらこの四谷中の 校門をくぐりました。制服姿の自分や友人を見て中学生になったんだと強く実感しました。同じ小学校出身の人としか話せなかったこと。今ではもう遠い昔のように思えます。そんな中行われた女神湖移動教室は、私たちの絆を作ってくれました。初めての運動会で一致団結できたのは、きっと、この移動教室のおかげです。

緊急事態宣言が発出され、家にいるだけの自粛生活。初めは長めの春休みと喜んでいたけれど、次第に友人と面と向かって話せないことに対するもどかしさを感じるようになりました。３年生に進級はしたものの学校は臨時休校が続きました。
３か月に及ぶ休校が終わり、学校が再開しました。久しぶりに再会した友に心から喜び、安堵したことを、私はこの先忘れることはないでしょう。

「旅立ちの日に」

中学生最後の一年間はコロナウイルスの感染拡大により多くの事が予定通りに行きませんでした。行事の中止にが続く中で、運動会は学年別で行われましたが、密を避けながらも、短い練習期間の中で私たちは今までに負けないほどの成果をあげました。全員リレー。前の人から渡されたバトンは３年間の一人一人の思い出が詰まって、いつもより重く感じました。なかでも一番残念だったのは修学旅行が延期となり、さらに中止となったことです。準備が念入りだったために、そのショックは大きいものでした。

「校歌合唱」

先日、修学旅行の代替行事として校外学習が行われ、仲の良い友達と一緒に出掛けることができた時、本当に嬉しく思いました。

社会の先行きがわからない中で私たちは受験の時期を迎えました。
自分の進路を決めていくのにコロナウイルスによる影響は大きいものでした。しかし、コロナに負けてたまるかと、より一層、心を燃やして勉強し、友人と切磋琢磨した日は忘れられない思い出となりました。

「卒業生退場」

３年間の思い出はたくさんあり、語りつくせません。
立ち止まることすらできず、風を切るように駆けてきた私達を３年間導き続けてくださったのは先生方でした。校長先生をはじめ、たくさんの先生方に私たちは支えられました。学校を常にきれいに保ってくれた主事さん。毎日給食を作り続けてくれた栄養士さんをはじめとする給食室の方々。私たちのために働いている方々、優しい目で見守ってくださった地域の方に、今ここで感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。本当にお世話になりました。

そして、なによりも私たちを十五年間育ててくれたお父さんお母さん本当にありがとうございました。時には衝突し何度もぶつかりながらも正しい方向へと導いてくれた両親には本当の感謝の気持ちでいっぱいです。私たちは、まだまだ未熟で迷惑をかけることも多いかもしれないけれど、これからもよろしくお願いします。そして、私たちが一人前になるその日までどうかそばで見守ってください。

私達はまだ出たばかりの小さな芽です。これから様々な出会いや経験をして、その度にたくさんのことを学び、成長していくでしょう。時には。立ち止まることがあるかもしれません。ですが、決して枯れることなく、幹や葉を必死に伸ばして伸ばし続けていつの日か、四谷中のプラタナスのような大きく立派な木となりたいと思っています。

一緒に歩み続けてきた別れの時がもう、すぐそこまで来ています。終わりという名の始まりに立った今、中学生という舞台は幕を閉じますが、次のステージの幕が新たに開かれます。一緒に学んだ同級生のみなさん、またいつかお会いしましょう。

さようなら。